

銀賞 三田村暢彦君

札幌建築デザイン専門学校建築工学科

blob-morphic

一枚のスラブというより、パーツとしてのスラブがそれぞれに関係し合い「連続的でありながら、差異化された空間を継ぎ目のない操作によって生成する。」発想は、現代的建築アプローチと言える。何か美しい、見た事もない世界観へ我々を魅きつける。しかし、疑問も多少感じた。建築はここまで大袈裟なアプローチは必要ないし、操作する作為はもっと隠れていいのではないのか。ここら辺に現代の建築の危険な未路を孕んでいる。

(文責：中山 眞琴君)

